

令和3年度第1回川崎市産業振興協議会 会議録

1 開催日時

令和3年8月3日（火）15時00分～16時35分

2 開催場所

川崎市産業振興会館 4階 企画展示場A・B

3 出席者

(1) 委員（15名）

鹿住会長（専修大学商学部教授）、岡田会長代理（明治大学大学院経営学研究科長）、中山委員（共立女子大学ビジネス学部教授）、増山委員（川崎商工会議所副会頭）、大西委員（神奈川県情報サービス産業協会常務理事）、窪田委員（横浜銀行執行役員・川崎地域本部長）、高橋委員（川崎地区貨物自動車事業協同組合代表理事）、舘委員（川崎地域連合事務局長）、柳瀬委員（川崎工業振興倶楽部会長）、熊谷委員（川崎信用金庫常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会青年部相談役）、沼委員（川崎市工業団体連合会理事）、原委員（セレサ川崎農業協同組合代表理事組合長）、星野委員（神奈川県中小企業家同友会政策委員長）、安永委員（川崎市観光協会観光推進部長）

(2) 事務局

経済労働局長、産業政策部長、国際経済推進室長、産業振興部長、都市農業振興センター所長、イノベーション推進室長、労働雇用部長、企画課長、じもと応援券担当課長、企画課職員

4 議題（公開）

- (1) 川崎市中小企業活性化条例に基づく令和2年度施策の検証について
- (2) 令和2年度の緊急経済対策に関する実施結果について
- (3) かわさき産業振興プラン・第3期実行プログラムの策定に向けた検討の方向性(案)について

5 傍聴人

0名

6 会議の内容

(令和3年度第1回川崎市産業振興協議会を宣言)

(会議成立、会議公開及び傍聴人の有無(0名)を確認)

(新規就任委員の御紹介)

- ・川崎信用金庫の熊谷委員が就任

以下、会議録

(鹿住会長) 本日は、議題1として、中小企業活性化専門部会にて取りまとめた「令和2年度施策の検証結果について」、事務局から報告を、続いて議題2として、「令和2年度の緊急経済対策の検証結果について」、委員の皆様から御意見を、最後に議題3として、「かわさき産業振興プラン・第3期実行プログラムの策定に向けた検討の方向性(案)について」、委員の皆様にご審議いただきたいと考えている。

それでは、議題1「川崎市中小企業活性化条例に基づく令和2年度施策の検証について」、に関して事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 資料1～資料3に基づき説明。

(鹿住会長) 何かお気づきの点があれば御発言いただきたい。

意見がないようであれば、続いて、議題2「令和2年度の緊急経済対策に関する実施結果について」に関して、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 資料4に基づき説明。

(鹿住会長) 何かお気づきの点があれば御発言いただきたい。

(増山委員) じもと応援券については、確実に成果があった。消費喚起に繋がった。

(出口委員) 経済対策として様々な施策を行ったが、コロナに感染した従業員のいる事業者への支援などはないのか。

(企画課長) 事業者支援として、コロナに感染したことが原因での売上減少などへの施策としては実施していないが、感染対策としての職場設備の改善などの支援策を実施した。

(出口委員) 感染防止への対策があることは把握している。コロナに感染した場合での

支援策があった方がよい。

(熊谷委員) 昨年度、無利子無担保融資を実施した、各事業者の預金残高の推移を見ており、6月末時点で3割減っていることに心配していたが、資金繰り指標は上がっている。今後の指標を注視して実態を把握したい。

(星野委員) 小規模事業者臨時給付金について、不公平感があり、一律給付ということで、必要なところに給付が少なかったと感じている。幅を持たせるなど、今後、給付の方法などを考えてほしい。

(経済労働局長) 国・県・市での支援の役割が不明確なまま、様々な施策を実施しており、本事業は給付までのスピードを優先して実施した。その後、実施しながら、制度の見直しを行ってきたところである。今後は、コロナ禍が続いている中、素早くかつ必要な対象者への支援などに取り組んでいきたい。

(鹿住会長) 最後に、議題3「かわさき産業振興プラン・第3期実行プログラムの策定に向けた検討の方向性(案)について」、事務局から御説明いただきたい。

(事務局) 資料5に基づき説明。

(鹿住会長) 示した内容を審議いただきたい。

(増山委員) DXとSDGsについて、中小企業でも取り組む必要があると考えている。SDGsの取組を具体的に上げるべきではないか。もっと事業者と連携して進めてほしい。

(企画課長) SDGsについては、5つの視点を更に包含する取組として、記載できるように工夫して、お示ししたい。また、所管する総合企画局とも連携して進めていきたい。

(星野委員) 成長産業の育成について、川崎市として、成長産業というのは、どのくらいあるのか。成長産業だけ育成するだけでなく、既存の産業への支援をこの施策の中に盛り込んでほしい。

(企画課長) 国で成長分野と示している脱炭素など、様々な産業化の可能性のあるものを踏まえて新しく取り組むものを、市としても意識したいとして記載している。ポス

トコロナ対応や技術革新、環境や福祉市場などを取組として進めていくことと考えている。

併せて、経営資源の確保に向けて、デジタル化や生産性の向上の取組、事業基盤や事業継続への取組も一体的に取り組んでいく必要があると考えている。成長分野だけではなく、社会環境などが変化していく中で、対応を変えつつ、しっかりと事業継続ができるという点を踏まえて記載している。

(星野委員) 補足説明があると理解できるが、文字だけで伝わりにくい点がある。

(企画課長) 伝わりやすいように工夫していきたい。

(沼委員) じもと応援券の第2弾について、デジタル化がどのようになっているのか。

(産業振興部長) デジタルとした際に利用者が限られてくるとの懸念から、第2弾も紙での取扱いとなっている。今後は、様々な選択肢を踏まえて検討していかなければならないと考えている。

(窪田委員) J F E スチールの高炉休止は、かなり影響があると考えている。市内での製造業の減少や人材不足などの課題がある中で、業務に影響のある事業者と人材が不足している事業者のマッチングなどの仕組みを持ってほしい。

(労働雇用部長) J F E スチールと情報共有を進めており、雇用を確保していくと聞いている。今後、休止前の時点での J F E スチールの雇用の状況に応じて、臨海部などでの人材確保につながるように取り組んでいきたい。

(舘委員) DX や SDGs、BCP などが重要だと考える。また、市内産業が人材不足を課題として抱えており、若手人材の教育が重要であると考えている。次の社会の担い手にどのような教育を行っていくかが重要である。様々な分野で教育を行っていく施策が必要ではないか。

(労働雇用部長) 働き方改革や生産性向上の事業の中でも人材育成・確保に取り組んでおり、市内企業にその取組を広げていきたいと考えている。

(柳瀬委員) 方向性の中でデジタル化を謳っている中で、協議会などの会議体もやり方を見直す必要があるのではないか。このような点から率先して取組を行うべきでは。

(企画課長) 行政のデジタル化についても市内でも進めているところではあるが、現在できていないところであるため、今後、意見を踏まえて取り組んでいきたい。

(柳瀬委員) 対面の良さもあるが、資料の印刷や会場の準備など、業務の効率化の余地もあるので、検討して行ってほしい。

(出口委員) 老舗と言われるような事業者が工夫して業態転換した成功事例等を情報発信することもよいのではないか。

(イノベーション推進室長) いわゆる第2創業と言われるような、業態転換等の成功事例を把握しきれないところであるが、そのような業態転換の事例をどのように把握し、どのように発信していくか、これから考えていきたい。

(出口委員) 自分自身も不動産業から介護事業へ業態転換に取り組んでいる。業態転換の成功事例を分かり易く伝える取組は重要であるとする。

(鹿住会長) プランの計画期間が10年となっている中で、10年は長く、大きく変わっていく要因もある。第2期から第3期に向けてどのように変わってきたのかの変化が十分に読み取れないので、整理いただきたい。通常、第2期の目標が達成されたのか、未達成ならその原因は何かを分析して、次期の計画策定に活かすべき。また、コロナのような新しい課題の発生への対応も必要。内部で十分検討されていると思うが、その検討の過程が見えない。課題を分析し、目標を変更する、新しい目標を設定するなどを踏まえて施策を検討する必要があると思うので、その点をわかりやすくしてほしい。

(鹿住会長) 議題は以上となる。事務局から連絡事項等あればお願いします。

(産業政策部長) 長時間に亘る議論に感謝申し上げます。御意見いただいた第3期実行プログラムについて、計画案を策定、パブリックコメントを実施したうえで、第2回産業振興協議会にて、報告する。以上で、閉会とさせていただきます。

以上